

食道癌における Mesothelin、CA 1 2 5 発現の意義、及び癌間質における Periostin、 α-SMA 発現との関連に関する後方視的検討

1. 研究の対象

2009年1月～2018年1月に当院で食道癌の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

近年では拡大内視鏡の進歩、胸腔鏡、ロボット手術の開発などにより、食道癌治療は早期発見や低侵襲手術が可能となってきました。しかしながら手術後の5年生存率は15-25%と依然不良であり、他癌と比較して再発率も高く、悪性度の高い癌腫です。食道癌に対しては術前化学療法や術前化学放射線療法などの開発が進められていますが、このような集学的治療の対象患者の選別という観点からも、再発リスクのより鋭敏な予測因子の探索が重要です。

近年、卵巣癌、胃癌、膵癌などにおいて Mesothelin 蛋白の発現が腫瘍の悪性度を反映することが数多くの基礎研究で明らかにされています。特に卵巣癌においては Mesothelin 蛋白と CA 1 2 5 蛋白の共発現症例ではその悪性度は更に高く、MUC 1 6 /CA-1 2 5 と Mesothelin の結合を抗 Mesothelin 抗体によりブロックすることで抗腫瘍効果が期待されるとの報告もありますが、食道癌においては Mesothelin 蛋白発現の臨床的意義に関する報告はありません。

また近年、癌間質の脱分化が腫瘍の増殖能、転移能と関連することが報告されており、脱分化に関与する Periostin 蛋白発現、α-SMA 蛋白の発現が腫瘍の悪性度に関わるとの報告もあります。そこで、本研究では食道癌における Mesothelin 蛋白、CA 1 2 5 蛋白の発現の臨床的意義を検討するとともに、Periostin 蛋白発現、α-SMA 蛋白の発現などの脱分化に関わる因子との関連について検討することを目的としました。本研究により食道癌領域において、腫瘍の悪性度を評価する新たな指標が見つかり、食道癌治療における周術期化学療法を始めとして既存の治療の進歩に寄与する可能性があります。研究期間は学校長承認後から令和4年12月31日までの約4年間を予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：対象患者の臨床病理学的背景、転帰

試料：手術で摘出した病理検体

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者 外科学講座 石橋 勇輔

住所：埼玉県所沢市 並木 3-1

電話番号：080-3241-6737